

家庭，技術・家庭（家庭分野）

1 これからの家庭科教育について

自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，生涯の見通しをもって，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する。

家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流，食育，消費の在り方，資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。

体験から，知識と技術などを獲得し，基本的な概念などの理解を深め，実際に活用する能力と態度を育成するために，実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また，知識と技術などを活用して，学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために，問題解決的な学習をより一層充実する。

学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意する。

2 各学校において取組が求められること

小学校

平成 22 年度の第 5 学年から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう，2 年間を見通し，各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。

- ・ 知識・技術の習得とともに，創意工夫する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
- ・ 教材研究と教育環境の整備
- ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）
- ・ 指導と評価の一体化

中学校

平成 24 年度の全面実施を円滑に行うため，平成 22 年度入学生から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう，3 年間を見通し，各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。

- ・ 学習指導要領改訂の理解
- ・ 知識・技術の習得とともに，工夫し創造する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
- ・ 教材研究と教育環境の整備
- ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）

高等学校

平成 25 年度入学生からの実施を円滑に行うため，学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び各科目の年間指導計画の作成に配慮すること。

- ・ 学習指導要領改訂の理解
- ・ 義務教育段階から高等学校の指導内容への系統的な理解
- ・ 生徒の興味・関心・意欲を高める題材の工夫
- ・ 思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法の研究

3 家庭科，技術・家庭科（家庭分野）における言語活動の充実

- ・ 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために，言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動を充実させる。（小学校）
- ・ 衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や，生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動を充実させる。（中学校）
- ・ 子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い，他者とかかわる力を高める活動，衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動，判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実させる。（高等学校）